小高同窓会報

第５号
2022年３月１日
発行
小山高等学校同窓会
印刷　大星印刷（株）

同窓会長挨拶

同窓会会長
舩渡川　進

同窓会報第五号を発行するにあたり一言御挨拶申し上げます。

会員の皆様には日頃より、ひとかたならぬ御支援、御協力を頂き心より感謝申し上げます。更には会報発行のため、多くの方々から御寄付を賜りましたことを、この場をお借りして御披露申し上げるとともに、改めて御礼申し上げます。

同窓会報では、母校の現在をお伝えするとともに、会員の皆様からの御投稿や地元で活躍の方々からの御寄稿をお届けしておりますが、今回は大塚様（三十二年度卒）、新井様（三十三年度卒）、上野様（四十三年度卒）、平田様（平成九年度卒）から玉稿を賜りました。大塚様は宇都宮市にお住まいで私の大先輩です。全国を講演なさったり、本を出されたりしていらっしゃるお方だと聞いています。続いての新井様も私の大先輩で、前栗田会長と同窓生です。又奥様も小山高校卒業生です。クラスや同じ学年の方との交流会等もマメに行っていてその記録も事細かく書かれていて、すばらしくきれいに残されていると言う方です。又上野様は野球のＯＢと言う事で古い野球のお話と共に登場する方です。平田様は小山高校ボクシング部で、インターハイ（高校総体）で優勝なさったり、小山市間々田で手広く色々な仕事をやっており御活躍中です。はなはだ簡略な御紹介になりましたが、詳しい内容は御寄稿をご覧頂きたく存じます。

新型コロナウイルスについては変異株の出現、ワクチンの効果や第６波の感染急拡大などまだまだ予断を許さない状況にあります。この会報がお手元に届く頃にはできる限りかつての日常に近い形になっていることを願っております。同窓会の総会につきましては来年度の五月（第三土曜日を予定）に開催したいと思います。後日改めて開催通知をお送りいたしますので、その折りには是非ともお知り合いの同窓生の方々とお誘い合わせの上、御出席賜りますようお願いいたします。同窓生同士が忌憚のない意見を交わしたり、思い出話に花を咲かせることができる会になるよう祈っております。

今年度の本校にかかわる大きな出来事として、本校から農業科・園芸科・生活科が分離独立して小山園芸高校（現　小山北桜高校）が誕生して五十年を迎え、教育委員や小山市長の御臨席のもと北桜高校において五十周年記念式典が挙行されました。本校からは校長先生と私　舩渡川が代表として出席させていただきましたが、現在は昔の園芸高校とは違って特徴のある魅力的な学科があり、大変人気があると伺いました。高校再編は身近なところでも行われておりますが、再編されて新たな魅力が生まれて前途有為な若者が育っていくことは喜ばしい限りです。

同窓会といたしましては、決議事項がある関係上、感染防止に十分に配慮した上で定例会を予定通り実施いたしました。会報につきましては、固い感じをなくそうと言うことで、担当の小堀、菱沼、赤荻、大橋、山中、植村、鈴木さんに何度も御足労いただき、写真を多く取り入れるなどの工夫を試みました。アニバーサリーホールの写真などもございますので、こちらも是非ご覧下さい。この会報が同窓生をつなぐ架け橋の役割を些かなりとも果たすことができればと考えて編集にあたっておりますので、皆様から近況についての御連絡や同窓会への御意見など頂戴できれば幸いです。

お願い事ばかりとなり恐縮ではございますが、今後とも変わらぬ御支援と御協力をお願いするとともに、皆様の御健康とますますの御発展をお祈り申し上げ、御挨拶といたします。

校長挨拶

校　長
横尾　浩一

定期異動により令和３年４月に着任しました横尾と申します。どうぞよろしくお願いいたします。同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しまして様々な所でご支援を頂きまして、心より感謝申し上げます。

昨年度は、コロナの影響によりほとんどの学校行事が中止となってしまいました。今年度に入ってもワクチンの接種が始まったとはいえ、状況は不透明なままです。そうした中、感染予防に努めながら、密にならないようにし、校内球技大会を５月末に実施しました。９月に学校祭が予定されていましたが、10月の緊急事態宣言開けに発表方法を変更し、オンラインにて実施しました。また、11月に予定されていたマラソン大会は残念ながら昨年に引き続き中止としました。マラソン大会時に実施していた創立記念行事は、校内放送を利用し、同窓会長さんから創立記念の挨拶をしていただきました。なお、マラソン大会時に生徒に配布される創立記念のタオルは、同窓会のご配慮によりましてマラソン大会は中止でしたが全生徒に配布させていただきました。12月には10月から延期した修学旅行も控えています。原稿を書いている11月の時点では実施の方向で進んでいます。その他学校行事が控えていますが、感染状況等をみながらの判断が続くかと思います。本来ならば、同窓会の皆様にご協力依頼をすることもありますが、感染予防の観点から、縮小しての行事を開催しなくてはならないことがあるかと思います。何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。

６月から続いていた、管理棟の外壁工事が11月に完了しました。来校の際にはご迷惑かけましたが、今度来校される際には、きれいになった校舎をご覧いただければと思います。

生徒たちは落ち着いて学習に励んでいます。課外活動では、剣道部、ウェイトリフティング部、陸上部が関東大会に出場するなど運動部、文化部ともに活発に活動しています。

最後になりますが、創立１００周年を越え、創立１０３周年を迎える伝統ある本校の更なる発展に向け、教職員ともども教育活動に取り組んでまいりますので、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

不屈の歩みを次の100年へ

襷（たすき）を繋（つな）ぐ

生徒会長
渡邉　美月

現在の小山高校では、先輩方から受け継いだ文武両道の校風のもと、生徒の約８割が部活動・同好会に所属して活動しています。普通科と数理科学科が設置されており、生徒は皆大学進学・進路実現に向けて朝の学習から熱心に勉強に励むとともに、身体能力を高め強固な精神力を仲間と共に培うべく日々精進しています。

新型コロナウイルスの影響により生活環境が大きく変動する中、感染症対策を優先させたり、登校時間が変更されたりと、落ち着かない毎日が続きました。今年度は、安全を考慮し例年通りの聡輝祭を実施することができませんでしたが、少しでもみんなを笑顔にしようと私達なりに工夫し、考え、文化部の活動紹介や作品展示を行いました。私たち生徒会役員は、このような状況下でも、どのようにしたら学校生活をより楽しむことが出来るかを必死に考え、物事を前向きに捉えて不穏な空気に屈せず諦めずに取り組んできました。現在の学校生活を落ち着いて過ごせているのも、マスクの着用・手の消毒・行動範囲の縮小などの感染症対策を心がけて協力してくれている全校生徒の規範意識の高さにあると感謝しています。

「不屈のあゆみ　意気高し」と校歌の一節にもある伝統と熱い魂を受け継ぎ１０３年目という新たな歴史の１ページを刻んでいます。これからの小山高校を盛り上げていく後輩たちが、益々活躍し飛躍をしてくれることを期待し襷を託していけるようこれからも励んでいきます。

私たちは歴史と伝統のある小山高校生であることを誇りに不屈の魂を持って歩んでいきます。私も生徒会長として、全校生徒の心に寄り添い共に歩く姿勢を示し、失敗を恐れず挑戦を続けて、他の生徒の模範となれるよう努力していきたいと思います。

最後に、いつも支えて下さる同窓会の皆様に心より御礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を宜しくお願いいたします。

活躍される同窓生

S.32年度卒業
㈱日本ヒューマン経営研究社
社長
大塚　徹

一人ひとりの生き方で

■人はほめ合うことで強くなる

どうした日本人！と言いたくなるほど、最近の日本人が弱くて暗くなってしまった。スネているのかダダをこねているのか、その幼児性ぶりには目を覆いたくなります。

・あいさつに元気がなくなった。
・人をほめる人が激減した。
・無表情の人が多くなった。
・社会人的マナーが劣化し続けている。
・あきれるような犯罪が増え続けている。

など、今ではすっかり、弱く暗く、意気地無しの日本人へと退化し続けているのが大いに気になります。自虐性にたっぷり犯された生き方には、流れの悪い川の淀みのように生きるエネルギーが伝わってこないのです。

■自慢・誇りが自分を強くする

子供たちへの指導者は当然大人です。そうなると大人は子供たちの手本・見本・鏡にならなくてはならない。つまり「子供は、その街の大人を見て育つ」からです。だから、家庭や学校、職場、地域社会で、自信・誇り・勇気が持てるような生き方を展開していかなければなりません。

それには次の三つを実践することです。

①まず、家族同士の挨拶です。なんと挨拶は肯定語の王様なのですから、家庭での挨拶が明るく元気になれば、それは学校・職場・地域での挨拶が展開され、自然と活力アップとなります。人間社会のスタートはこの家庭環境にあるからです。

②誰かが新しい行動を起こしたら、心から拍手を贈り、賞賛することです。どなたも新たな試みに挑戦するときには勇気がいるものです。その勇気に拍手し、讃えれば、当の本人は自信がつき、生きるエネルギーが沸きあがります。どうも日本人は人をほめることを意識してないようですが、人間には見栄も外聞もあり、それがプライドであり誇りでもあるのです。また、それがなければ人間は成長しません。このポイントをしっかりつかむことです。

③人から何かをしてもらったら、必ず、「ありがとうございます」の感謝の言葉をお伝えすることです。感謝の言葉は相手をやる気にさせ元気にさせます。また、自分自身の気持ちも前向きになり、心が解放されて明るくなり、生きる力が倍加します。

「ありがとう」言われるように言うように！「ありがとう」の多い人は、決って周囲を生き生きさせているものです。そして、やがて自分が周りの人たちから、どのくらい「ありがとう」を言われるかが、生きてきた正体であるのです。「一灯照隅、万灯照国」という言葉があります。意味は、一人が片隅を照らせば、次第に人々もそうするようになり、最後にはそれが国全体に広がることになるので、まずは自分から率先して照らそうと言っているのです。

一人ひとりの生き方で明るく元気で、強い日本人へとシフトしていきましょう。

私の高校生活

■思い出

合格発表の日、両親は離婚した。みじめさと恥ずかしさが、津波のように寄せてきた。特に「鶴見」姓が「大塚」の姓になったことだ。昭和30年頃は親の離婚で片親の身に、などと気軽に言えない時代だった。

担任の塩澤先生にやっとの思いで、卒業するまで「鶴見」で通して下さいとお願いしたら、先生も「そうしよう」と快諾。そして、〝負けるなよ〟と背中を押してくれたことが大きなエネルギーとなり、「鶴見」で卒業できた。だれにもバレずに・・・。

■この貧乏から抜け出したい

今でこそ女性の社会進出は当然だが、66年前の日本では、男が働く場所も少なく暗い時代だった。

母はニコヨンに。雨の日は休みとなる肉体労働で、一日働くと二四〇円（ニコヨン）をもらって帰ってきた。かなりきつい仕事のようで辛そうだったが、グチ一つ言わず深夜までの内職。

私も夜中二時に起き、毎日50本の牛乳配達をやり通した。一本の配達料はたったの一円で、50本配って50円、一ヶ月1500円の収入。このお金が月謝と、小山―雀宮間の汽車代になった。

母の寝姿を見ることなく母は必死に働き、八才下の妹と私を育ててくれた。この母の姿に胸打たれ、非行へ走るブレーキとなったのも事実だった。

応援団長など3年生になってからなのに、2年生から団長となり、ある種、全校生のリーダー気取りで闘い、家でも母と妹を守り、青春を燃やし続けた。またそこから人間としてどう生きるべきかが見えてきた。小山高での3年間は最高の肥やしとなった。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

活躍される同窓生

S.33年度卒業

新井　正之

私は、62年前の昭和34年３月に、（全）商業科を卒業、既に半世紀余の歳月が流れ、学校も周りの情景も、大きく変貌しました。

昭和31年４月に小山中学校から（全）商業科に53名が入学し、定員の１／３を占めました。中学生と同じく男子は頭を坊主に丸刈りで、蛇腹巻きの学帽を被り、中学校と同じ砂利道を登校しました。当時は学校正門を入ると右側は花壇を隔てて講堂があり、その北隣には図書館があり、体育館はありませんでした。左側の現在プールがある場所には、当時は教員用官舎が２～３棟あり、故酒井先生、故宮杉先生が入居していたと記憶しています。校舎は平屋建と２階建で、全て木造でした。通学道路側は小野塚文具店や食料品の秋山商店他の民家がありましたが、グラウンド西側（現在国道４号線）と校舎の北側は、農業科専用の広い農場（畑）で、鳥の鳴き声も聞こえるのんびりとした風景でした。商業科の教室は北側で、授業中に近くの喜沢踏切を、非電化だった両毛線を走るＳＬ列車の汽笛が教室まで聞こえて今では懐かしい思いです。授業では商業実践室の授業が楽しく面白かった。

また、３年生の時に創立40周年を迎え、講堂で式典が行なわれたことを思い出します。運動会は仮装行列が級友との絆で楽しく愉快でした。クラブ活動は中学校時代と同じ庭球部（現在のソフトテニス）に入部、コートは土で校庭の西南の端に２面あり、ローラ掛けをして、練習は先輩の青柳三郎さん、長谷部武さん他に指導を受けました。文化活動では英語は苦手でしたが、英文タイプ部に入り、レミントン製のタイプライターで練習、宇都宮商高で行われた競技会で団体３位入賞しました。昭和33年～34年は「なべ底景気」と言われ、不況で就職難でした。

私は東京の大手通信機メーカーの子会社に就職、42年間のサラリーマン生活を無事に定年退職し、半年後に県立シルバー大学校（南高）に入学、県南地区の仲間と授業（講義）や、学生自治会（副会長担当）のクラブ活動を通し、親交を深めて親睦旅行も５年間続けることが出来ました。卒業後は地元でＯＢの仲間と地域ボランティア活動で、小学生対象の「昔遊び」高齢者相手に「遊びりテーション＝生きいきふれあい活動」や、市内城南地区道路清掃活動を行いました。特に２０１１年３月11日に発生した東日本大震災では、小山市の県南体育館に百余名の避難者が１カ月余避難生活をされ、市ボランティア運営委員として、毎日のように市民からの救援物資や食料品等の受付・配布作業を行いました。今でも当時の厳しい避難生活者のことが脳裏に浮かんできます。

間もなく81歳を迎える後期高齢者ですが、同期の同窓会も平成23年11月に古稀祝い、平成30年６月に喜寿祝いと創立１００周年記念を兼ねて企画し開催致しました。現在の処、体調も良く小山市ウォーキング協会（理事）、小山市グラウンドゴルフ（Ｇ・Ｇ）協会（理事）、シルバー大学小山地区Ｇ・Ｇ協会会長、小山市体育協会（評議員）の任を仰せつかり、同窓会の先輩では青柳三郎さん（市Ｇ・Ｇ協会理事長）、同期生で栗田城さん（前同窓会長・小山市Ｇ・Ｇ会長）、橋本幸泰さん（元市シルバー人材センター長・市明るい選挙推進（協）監事）、海老沼孝治さん（大国不動産会長・本町自治会長・須賀神社総代他）他と親交を深めています。

最後になりますが、小山高校が創立百年の伝統を軸とし、地域の人達から熱い期待と信頼を受けて、県南部の中核となる高校を目指し、今後益々発展することと、皆様のご健勝をご祈念致します。

前列一番左が新井氏

S.43年度卒業

上野　文夫

甲子園の思い出

昭和四十三年八月、白一色に埋め尽くされた甲子園球場は真夏の太陽が照り付け、開会式に望み整列した私達選手の履くスパイクにまで陽射しをのばし指先は焼けるように熱く、地団駄を踏みたかった程暑かったことがまず思い出されます。

小山高校の組み合わせは、第六日、第四試合ということで夕方から始まった試合は照明が灯されるナイトゲームとなった。

小山高創立五十周年という節目の年。全国高等学校野球選手権大会は、奇しくも五十回記念大会であった。

初出場の小山高ナインは、〝甲子園に校歌を〟とのＯＢの願い、そして郷土の期待に応えようと全力で試合に望んだが四国代表古豪と言われた高松商業（十回の出場）に、１対２と涙を飲んだ。しかし、ユニフォームに刻まれた「ＯＹＡＭＡＫＯ」の七文字は甲子園独特のカクテル光線に映し出されチームカラーの「ムーンライトブルー」は彩かに浮かび上がり輝いていた。

創立五十周年の年に野球部を甲子園に出場させようと先輩の皆様方の強い思いがあったことを、後に、当時の小林松三

活躍される同窓生

前列左から三人目が上野氏

郎監督から聞かされた。私達野球部員の為に多くのＯＢ、野球関係者がグランドに足を運び、暗くなるまでノックや技術指導をしていただいたこと。又、精神面での強化ということでは、常光寺の門をたたき宇井先生の教えを乞うことができた。住職の教えは「克己」であった。これは今でも私達ナインの心の糧となっている。

卒業後、当時の野球部長粂川先生の薦めで県高等学校野球連盟審判部に籍を置くことになり、以後、四十数年に渡り好きな高校野球に関わってくることが出来た。

この間小山高の伝統を引き継いでくれた後輩部員の活躍で「昭和五十一年春」「昭和五十一年夏」「平成六年度夏」「平成十五年夏」と甲子園出場を成し遂げ、五度甲子園球場に校歌を響き渡らせてくれたことは本当にうれしい限りでありました。

二〇二一年の選手権大会は一〇三回を数え、私達の初出場は半世紀を過ぎ去りましたが、この原稿を依頼されまして高校球児と言われた時代に思いを馳せ、懐かしいシーンを幾つか思い起こすことができました。ありがとうございました。

末筆で恐縮ですが、同窓会に携わる皆様に感謝申し上げ、小山高等学校ならびに小山高同窓会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

H.９年度卒業

平田　廣一

小山高校同窓会の皆様、また小山高校に関わる皆様におかれましては、日頃より母校の発展にご尽力賜わり深く感謝申し上げます。

さて、私は姉が2人の姉弟で幼少の頃は、男の子と遊ぶ事はせず姉と遊ぶ事が多い幼少期でした。その為、男の子との遊びに馴染めず引っ込み思案で根暗な性格だったものですから、小学三年生の時にいじめに会い不登校となりました。その事で父親から買って貰ったのがボクシンググローブとサンドバックでした。それが、きっかけでボクシングにハマり、身体を鍛えると共に心も鍛えられ自分に自信が付き、小学校を卒業する迄には、百八十度違う「生き方」になっていました。

中学では、部活でバレーボール部エースで主将でしたが、ボクシングとは離れず高校は行かずプロボクサーになりたいと思っておりましたら、プロは十七歳からと年齢制限がある事を知り、中学時進路相談でもボクシング部がある高校だけを受験し、県立では小山高校しか当時ボクシング部は無かったものですから、朝練なども考えると一番家から近い小山高校が良いと考え入学致しました。

私立の学校に比べ、設備は古く、当時はリングが公式の約半分位の大きさで中央には丸い大きな穴も空いている中でも、斉藤先生やコーチ・先輩方の人間力に助けられ、苦しくも辛い練習の中でも楽しく笑顔で競技を続ける事ができました。

中でも、一つ上の先輩のお二人森戸先輩と大橋先輩が全国大会で二位と八位に入賞され、私とウエイトが近かった事が私には幸いし、私もレベルが引き上げられた事、そして入学した理念を改めて思い出し、三年生の最後の年は、担任と話し合い家から学校までの七キロ往復十四キロを試合が近い何ヶ月間から走り込み、帰宅してでも練習する日々を続け、念願であるインターハイを優勝する事ができました。またその総体では、最高の同級生飯野潤君も優勝、後輩菊地君も入賞してくれたおかげで三人で学校団体も三位と高成績で故郷に錦を飾る事ができました。

その後も大学など行きましたが、私の小山高校の三年間は人生のベースとなり、今もこの人間関係のご縁、環境に感謝をしていると共に「自信」ポジティブな心を育ててくれたスポーツボクシングに感謝をしております。

最後に、在校生や私より若い卒業生に対して少々先輩風を吹かせて貰えるならば、成功の方程式は京セラ創業者でもある稲盛和夫さんが「考え方×熱意×能力」と言われております。つまり成功の大半は心なのです。人生の全ては「心が優先する」と言っても過言ではないと思います。しかし、心はやっかいな物で時折、マイナス思考となります。マイナス思考は、先程の方程式で計算すると、どんなに高い能力があっても答えが全てマイナスになりますので、小山高校指標である「聡」「直」「剛」を忘れず、ポジティブ思考でコロナ禍の昨今ですが前向きな人生設計をして頂けたらと思います。どんな世代でも、ポジティブに生きていれば、可能性は無限大に広がっております。是非、頑張って下さい。

結びに小山高校の益々のご発展と、全ての方々に感謝して、皆様のご多幸を心からご祈念申し上げます。

在校生の“今”

3月 全国高校選抜剣道大会（女子） 報告　剣道部

3月26日～28日に第30回全国高等学校選抜剣道大会が、愛知県春日井市で行われました。本校剣道部は、女子団体　栃木県代表として出場してきました。

初戦から厳しい戦いとなりましたが、3回戦・準々決勝の代表戦にも競り勝ち、準決勝まで勝ち進むことができました。準決勝では福岡県筑紫台高校に敗れ、目標である日本一には手が届きませんでしたが、栃木県女子としては初の全国選抜大会3位入賞という結果を残すことができました。また本校の屋代選手が優秀選手に選出されました。これもひとえに応援してくださった皆様のお陰であると心から感謝申し上げます。

今後は、この結果に慢心せず。男女とも夏に向けて、さらに精進してまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

【大会結果】

1回戦
2－0　勝利　対　西陵（長崎県）

2回戦
2－0　勝利　対　秋田商業（秋田県）

3回戦
2－2　代表戦勝利　対　琴平（香川県）

準々決勝
0－0　代表戦勝利　対　敦賀（福井県）

準決勝
0－3　負け　対　筑紫台（福岡県）

6月 関東高校剣道大会（男女） 報告　剣道部

6月4日～6日に埼玉県上尾市 埼玉県立武道館で行われた関東高等学校剣道大会に男子団体、女子団体、女子個人3名が出場しました。

男子団体戦では、出場する3年生にとって最後の大会ということもあり、チーム一丸となって志気を高めて臨み、力を発揮することができました。結果、関東の強豪校に競り勝ち、決勝進出を果たしました。決勝戦は千葉県の翔凜高校との対戦となり、拮抗した試合展開の末、1－1の代表戦までもつれましたが、惜しくも敗れ結果は準優勝となりました。

女子団体戦は準々決勝で東京都の修徳高校に0－1で敗れ、ベスト8という結果でした。また団体戦での活躍が光った男子中丸選手、女子　刀川選手が優秀選手に選出されました。

小山高校男子団体の関東大会決勝進出は、昭和57年の優勝以来、38年ぶりの快挙となりました。正々堂々と勝負に挑む三年生の戦い振りは、本校剣道部が目指す「正剣」を具現化したものであり、後輩たちに道を示しただけでなく、立派に栃木県の代表としての役割を果たしました。優勝まであと一歩届きませんでしたが、男女とも最後まで力の限り素晴らしい戦いをしました。

今回も感染症対策のため無観客での開催となり、会場に入れず、インターネット中継での応援していただきました保護者の皆様や関係の皆様には心から感謝申し上げます。この後に控えるインターハイでも力を発揮し、目標である日本一になれるよう、さらに精進してまいりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

【大会結果】

男子団体　準優勝

2回戦
1－1　本数勝利　対　木更津総合（千葉県）

3回戦
1－0　勝利　対　東海大相模（神奈川県）

準々決勝
1－0　勝利　対　甲府商業（山梨県）

準決勝
2－1　勝利　対　東海大浦安（千葉県）

決勝
1－1　代表戦負け　対　翔凜（千葉県）

女子団体　ベスト8

2回戦
1－0　勝利　対　日大習志野（千葉県）

3回戦
2－1　勝利　対　茗渓学園（茨城県）

準々決勝
0－1　負け　対　修徳（東京都）

8月 全国高校総体剣道大会（男女） 報告　剣道部

8月9日～11日に石川県金沢市　いしかわ総合スポーツセンターで行われた全国高等学校総合体育大会剣道大会（インターハ

イ）に、男子個人1名、女子個人2名及び女子団体が出場してきました。

大会初日、男子個人戦では、2年生の関根選手が1回戦で静岡県磐田東高校の選手と対戦し健闘しましたが、延長戦の末に敗退しました。女子個人戦では、2年生の高松選手が2回戦で長崎県大村高校の選手に延長戦の末敗退、同じく2年生の青柳選手は1回戦で新潟県五泉高校の選手に延長戦の末敗退しました。

大会2日目、女子団体戦の予選リーグが行われ、初戦の滋賀県草津東高校に2ー0で勝利、2戦目の福井県敦賀高校に0ー0の引き分け、1勝1分のリーグ1位で決勝トーナメントに駒を進めました。

大会3日目、女子団体決勝トーナメントが行われ、1回戦、茨城県守谷高校を相手に1ー1の代表戦となり、主将の3年髙木選手が健闘しましたが、3回の延長戦の末に敗れ、結果、女子団体ベスト16で大会を終了しました。

男女とも日本一を目標として戦ってきましたので、結果は満足のいくものではなく、悔しさの残る大会となりましたが、選手及び部員全員が一丸となって、最後まで全力で戦い抜きました。今回も無観客試合となり、インターネット中継を通して応援してくださった保護者の皆様、またご指導いただきました皆様に心から感謝申し上げます。この経験を、3年生は今後の進路で、1・2年生は新チームでの戦いで、それぞれ新たな目標達成のために生かし、さらに精進してまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

陸上競技部

6月17日（木）から19日（土）にかけて、神奈川県川崎市等々力競技場で行われた関東高等学校陸上競技大会に参加した。

本校からは男子４００ｍに3年5組山下駿斗が、女子円盤投に3年2組岩﨑美侑が出場した。山下はコロナ禍で活動が制限される中、部長として部をまとめ上げ、自身の競技力も向上させて目標としていた関東大会出場を果たすことができた。岩﨑は高校から始めた円盤投げで地道な努力を積み重ね、1年次からは想像もできないほど記録を伸ばしてきた選手である。両者共に関東大会を勝ち抜いてインターハイ出場するまでは力及ばなかったが、3年間の集大成として県大会を突破して関東大会に出場できたことは本人だけではなく後輩部員にも大きな刺激となった。

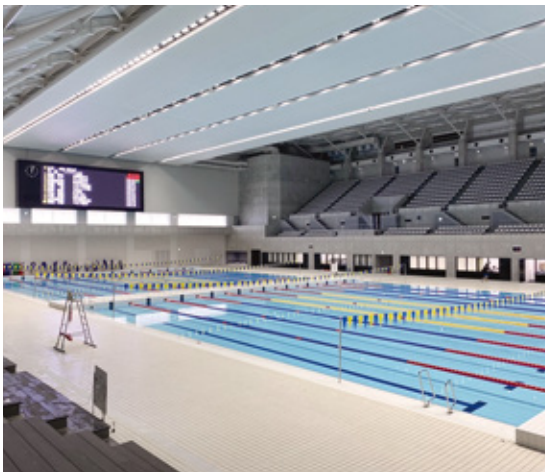
無観客・感染症対策を徹底しながらのいつもとは勝手の異なる大会であったが、緊急事態宣言の中の開催の英断をしてくださった関係者各位、さらには日頃から陸上競技部の活動を支えてくださっている同窓会・ＰＴＡの皆様には感謝の意を表したい。

水泳部

令和3年度関東高等学校水泳競技大会に2年生の村上陽大と1年生の村上結哉の2名が出場してきました。

2人とも高校に入学して初めての関東大会でした。初出場ということで緊張していたこともあり、最高のパフォーマンスをすることができず、自己ベストにも届かず悔いの残る結果となってしまいました。しかし、この悔しさと、出場してきたという貴重な体験を生かして、来年の夏の大会では、最高のパフォーマンス、結果を出したいと思います。

多くの方々に応援していただきありがとうございました。これからも、日々の練習を積み重ね、レベルアップしていきます。



村上　陽大 君

村上　結哉 君

バスケットボール部　大会報告

令和3年8月21日・22日に栃木県において開催された国民体育大会関東ブロック大会バスケットボール競技に栃木県の代表選手として、1年生伊澤亨知が出場した。大会において、攻撃ではクラッチシューター、守備ではエースストッパーとして活躍し三重国体出場権獲得に大きな貢献をした。小山高校としては平成26年に選出された坂倉俊太さん以来、8年ぶりの栃木県代表への選出である。

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、制限の多いなかでの強化であったが、2泊3日の三重強化遠征合宿や県内の強化練習会を経て、監督からチームを勢いづけるクラッチシューターとしての信頼を得る選手へと成長した。ブロック大会、1回戦、千葉県との試合は終盤まで試合がもつれたが、残り3分で伊澤がスリーポイントシュートを決め、栃木に流れを引き寄せ勝利に貢献した。続く準決勝では、序盤から相手のエースの得点を抑えるデフェンスで貢献したが、残り5秒で勝負感の強い神奈川県の選手に決勝ゴールを決められ2点差での敗退となった。3位決定戦では茨城

県と対戦し、伊澤は攻守ともにアグレッシブなプレーでチームに勢いを与えた。熾烈な争いが繰り広げられる関東ブロック予選において千葉県、茨城県を撃破し、３位でブロック予選を通過し本戦出場権を獲得した。しかし、全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大により三重国体が中止となってしまった。

この経験から伊澤はプレーヤーとしてだけでなくひとりの人間として大きく成長した。本人とご両親からチームメイトだけでなく、これまでバスケットボール部の歴史を創った卒業生や本氣でバスケットボールに打ち込める環境を整えてくれた同窓会の皆様や先生方に向けての感謝の言葉を預かっておりますのでこちらに記してお伝えさせて頂きます。

伊澤選手においては『２０２２年いちご一会とちぎ国体』の強化選手にノミネートされており、本国体での特段の活躍を顧問として、代表チームスタッフのひとりとして楽しみにしている。今後の活躍に注視して応援いただければ嬉しい限りです。本人も小山高校での勉学を通して人間としての幅を広げ、バスケットボールを通して社会のリーダーとなれる人間力を磨く努力を惜しまないと思います。

令和元年度卒業生、増田風真（現白鴎大学２年生）も栃木県成年男子代表選手として国民体育大会関東ブロック大会バスケットボール競技出場し活躍したこともあわせて報告させていただきます。

ウエイトリフティング部

全国選抜大会

二年三組　小藤　快勢

新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止になる中で行われた全国選抜大会だった。

高校に入学してから初めての全国大会だった。一年生でこの選抜大会に出られると思っていなかったので嬉しさと不安と緊張が入り交じったなんともいえない気持ちでいっぱいだった。大会が決まってからは今まで以上に練習に励んだ。自分の筋力的な弱点はどこなのか、また、苦手な種目を克服するにはどうしたらいいのか。得意な種目をより一層伸ばすには等、日々の練習メニューを考え突き詰めていった。また、ランキングの近い選手を見て、どの様に試合展開をしたらいいか作戦を考えていた。大会当日、この日この時の為にやれること考えられることを全てやりきった事で、心の中には一切不安が無かった。また、体調も絶好調だった。しかし、試合が始まると緊張から冷静な判断が出来ないほど舞い上がってしまった。スナッチ終了時点で六kg負けていた。優勝を賭けてジャーク最後の試技で七kgの逆転を狙った。やるべき事を全てやりきった自信から不安は無かった。結果、「優勝」

この大会を通して多くのこと学べた。例え不安があったとしても今自分に出来ることを一生懸命にやれば結果はどの様になろうとも満足が出来る事が分かった。今後の大会に生かしていきたい。

関東大会に参加して

二年三組　小藤　快勢

この関東大会は不安とプレッシャーとの戦いだった。一年生三月の時に出場した全国選抜大会で優勝した。それからは多くの人に「次の大会も頑張って」「次の大会も期待してるよ」等と声をかけてもらうことが多くなり嬉しかった。しかし、それと同時に「次の大会で負けたらみんなの期待を裏切ってしまう。」とプレッシャーを感じていた。全国選抜大会の前のような一生懸命に納得のいく練習をしても負けてしまったら応援してくれた人たちをがっかりさせてしまうのではないか？という不安感がいつもつきまとっていた。日々の練習でも「これでいいのか？」「もっと練習しなければ。」と考えることが多くなっていった。そのような心理状態で大会を迎えた。アップ中も不安感と緊張とプレッシャーに押しつぶされていくような感覚だった。

大会が終わった。結果は優勝。嬉しさよりも安堵感とプレッシャーから解き放たれた開放感でいっぱいだった。とにかく疲れた。精神的な疲労が大きかった。

今回の大会で感じたプレッシャーは、今後の大会でも経験する事になると思うのでもっとメンタルを強くし、今後の飛躍の原動力にしたいと思う。

インターハイに参加して

二年三組　野澤　奈穂

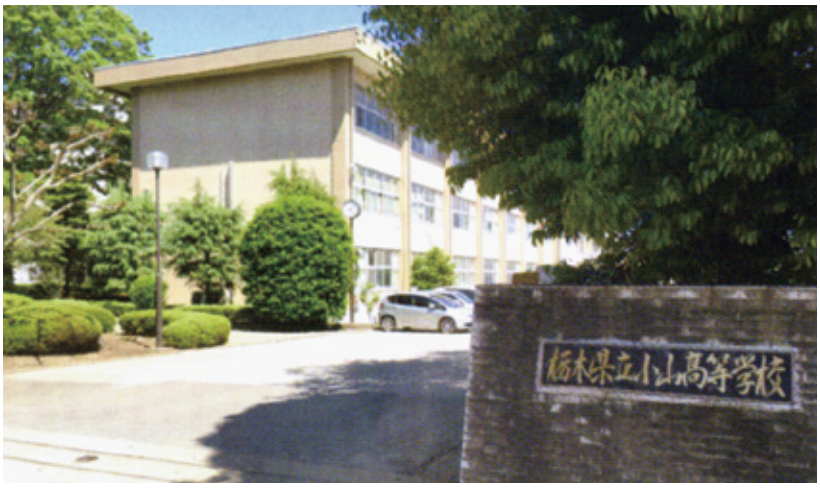
今年度から女子もインターハイ種目に加わり、県からの出場枠が二名という厳しい予選を通過しての出場でした。不調が続き記録が伸び悩む中、不安もありましたが一緒に出場することが出来なかった仲間の分まで頑張ろうと思い挑みました。

スナッチの第三試技を失敗してしまった為、クリーン＆ジャークで巻き返すことが出来ず結果もあまり良いものでありませんでした。練習で何度も挙げていた重量なのに緊張で体が固まってしまい精神面の弱さ

を強く感じました。今後の練習では、どんな状況でもひるまない様に気力も強化し、二度とこのような悔しい結果にならないようにしたいです。

最後に様々な面で指導して下さった先生方をはじめ、支えて下さった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

小高スナップ



【アニバーサリーホール】

展示する品物があればご連絡下さい。

令和２年度 栃木県立小山高等学校同窓会会計決算書

収入額 4,868,744円　支出額 2,478,537円　差引残額 2,390,207円

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	差引	摘要
繰越金	2,071,930	2,071,930	0	前年度繰越金
会費	2,300,000	2,230,000	△ 70,000	10,000円×223名
雑収入	70	566,814	566,744	預金利息、同窓会寄付金等
合計	4,372,000	4,868,744	496,744	

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	差引	摘要
会議費	315,000	193,373	121,627	総会、役員会等
通信運搬費	200,000	100,940	99,060	切手、はがき等
印刷製本費	500,000	185,220	314,780	同窓会報印刷代等
卒業記念品	250,000	129,340	120,660	卒業記念品（証書ホルダー）
旅費	70,000	0	70,000	研修視察費用
渉外費	85,000	0	85,000	対外的渉外費用
支部助成費	30,000	30,000	0	清山会助成
研修費	200,000	0	200,000	研修旅行
入会式費	60,000	11,474	48,526	入会式費用
進学助成費	100,000	79,200	20,800	進路指導助成
競技出場補助費	250,000	42,000	208,000	関東大会以上出場生徒助成金
創立記念助成費	350,000	262,440	87,560	創立記念マラソン大会
慶弔費	280,000	76,000	204,000	会員の慶弔、餞別
教育活動補助費	300,000	128,550	171,450	教育活動のため物資等の購入
事務補助費	150,000	140,000	10,000	事務補助
積立金	1,000,000	1,000,000	0	特別事業費積立（周年事業等）
予備費	232,000	100,000	132,000	Webカメラ購入費
合計	4,372,000	2,478,537	1,893,463	

同窓会報発行にかかる費用をご寄付いただいた皆様ありがとうございました

今回皆様の温かく、心強い御支援を頂いたたまものと心から感謝いたしております。ここに、ご寄付くださった方々のご芳名を謹んでご報告申し上げます。

（敬省略・順不同　令和四年一月五日現在）

山中利一　稲葉一敏　北島輝美　岩瀬則夫
丹羽政之　蒲田俊彦　増山昭子　増子浩司
大塚徹　橋本幸泰　増山和晃　小堀順子
町田勝美　板橋智　島野利治　渡辺昌邦
松本俊雄　川島一夫　山中弘幸　新井シズ子
内藤孝子　柏崎利二　海老沼吉雄　新井正之
小井田雪雄　須田陽介　増山かよ子　猪瀬則之
鈴木良弘　池上和子　野口一夫　福田孝博
古山房子　出井達也　岩崎厚士　星野賢一
大橋文男　篠崎邦雄　栗田城　大川一城
長茂男　岩崎正一　髙橋希美　原田利通
諏訪良作　宮田将美　上野恵美　原田祥利
針谷久雄　若田部明　舩渡川進　細山剛志
荒川聖子　宇賀神敏光　舘野茂男　横井章文
野澤光　叶内庄一朗　黒川愛弥乃　植村友芽
大里寿雄　藤沼喜平　篠崎真也　大島
毛塚浩司　松本武博　須藤文博　匿名
百目鬼正義　酒井満　星野敏和
高山秀雄　武井一晃　南謙治
大木元　佐藤佐知子　福嶋ヨシ子
蒲田直樹　藤ケ枝広志　木村恒太

同窓会報の発行を継続するために、今後ともよろしくお願いいたします。

同窓会事務局から

お知らせ

今年度の同窓会総会

日時二〇二二年五月二十一日（土）午後二時～　小山高校学習室２

での実施を考えていますが、コロナ禍の状況を考えると中止の場合もあります。常任理事会は実施する予定ですが、総会については直前に学校ＨＰでお知らせしたいと考えています。

お願い①

第三号より、「活躍される同窓生」というコーナーを設け、同窓生の近況や様々な情報を掲載し、小高同窓会報を年一回発刊していきたいと考えております。寄稿していただける方がいらっしゃいましたら、自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

お願い②

小山高の歴史、過程や学科の変遷、部活動の栄光の記録など集積したアニバーサリーホールが百周年を記念して本校に整備されました。展示していただけるものがありましたら、事務局までご連絡ください。

お願い③

小山高校ホームページにて、同窓会から情報発信する場合がございます。ホームページの内容を御確認下さい。

編集後記

同窓会会報第五号発刊にあたり、第四号にも掲載させてもらいましたが再度お願い申し上げます。委員会メンバー内での寄稿者を探すのは大変困難を様しています。小山高校は、二万三千人を超える卒業生を輩出し、日本中いや世界中に出て活躍されている方も大勢いらっしゃると思います。

大変御多忙の中少し時間を裂いて頂き、母校を思い出し、此の方はと言う方がいらっしゃいましたら、是非御一報頂けると有難いです。宜しくお願い致します。

同窓会報は気軽な気持で当時を忍び懐かしい恩師や友人、部活動の思い出並びに近況報告等あるかと思いますので是非寄稿されて見てはいかがでしょうか。

御一報を御待ちしています。（山中）

小山高等学校同窓会事務局
〒323-0028
栃木県小山市若木町2-8-51
TEL 0285-22-0236

小山高校 令和3年度 同窓会役員名簿（R4.2.1）

	役職	氏名
1	顧問	石崎　進
2	顧問校長	横尾浩一
3	名誉会長	栗田　城
4	会長	舩渡川　進
5	副会長	山本幸男
6	副会長	滝沢洋子
7	副会長	岩崎晴一
8	副会長	小堀順子
9	副会長	菱沼英子
10	副会長 清山会	阿久津宣明
11	副会長 教頭	森澤宗治
12	副会長 教頭	近藤康弘
13	会計	小林敏明
14	会計	大橋文男
15	会計	増子浩司
16	会計 事務長	田熊裕之
17	庶務	植村　一
18	庶務	赤荻秀夫
19	庶務	渡辺　勉
20	庶務	楠田健一
21	監事	鈴木良弘
22	監事	山中利一
23	監事	秋山静男
24	事務局	和久井　明
25	事務局	小藤安正
26	事務局	髙森輝和
27	事務局	西村陽子
28	事務局	廻谷真帆
29	事務局	眞渕瑶子
30	事務局	坂井梨恵